

6.4 異常についての報告

実証試験中に実証対象機器本体の破損やスカムセーブネットが目詰まり・破損などの異常はなかった。

6.5 結果のまとめ（総括：実証試験結果から見た実証対象機器の特徴について）

（1）設置条件、運転維持管理等

実証対象機器は、油脂分離槽内に設置するため、実証対象技術によって新たなスペースを要することなく、設置が容易である。

さらに運転・維持管理においては、特別な知識は必要としなくとも対応できる容易さと、設置工事も短期間で完了し、設置後直ちに本稼動することができる。

（2）水質結果と運転条件等

油分濃度が高い排水の除去効率がよく、厨芥残渣をスカムセーブネットで効果的に阻集していることから、この実証対象機器は高濃度の油分で、残渣が多い排水の処理に適している。また、排水から浮上分離した油分を油吸着材に吸収するため、効率的に油分だけを除去し、操作も容易である。

さらに、実証対象機器の導入によって、油脂分離槽の性能を向上させている。

（3）その他

本実証試験と並行して、試験を実施した別の学校の学生食堂で測定した結果では、ノルマルヘキサン抽出物質含有量（n-Hex）の流入濃度が39～270mg/L（平均130、中央値130 mg/L）、処理水は39～170mg/L（平均100、中央値99mg/L）であったが、本実証試験の目標値として設定した条件（表5-1参照）であるn-Hex 250mg/L以上の平均流入濃度を満たしておらず、本実証試験の実証場所として採用しなかった。

しかし、この結果を参考にすると、流入水の平均濃度が、130mg/L程度である場合には、90%以上の処理率が得られないが、本実証試験のように、490mg/L程度の濃度である場合には高効率に処理できることが確認できる。

また、浮遊物質（SS）についても流入水の濃度が平均260mg/Lであり、実証試験の目標値の条件（表5-1参照）を満たしておらず、この項目についても目標の処理率が得られていない。処理率については、生物化学的酸素要求量（BOD）においても同様の傾向が見られた。